

1999/10/08 ~ 11

甲斐駒ヶ岳・仙丈ガ岳山行報告

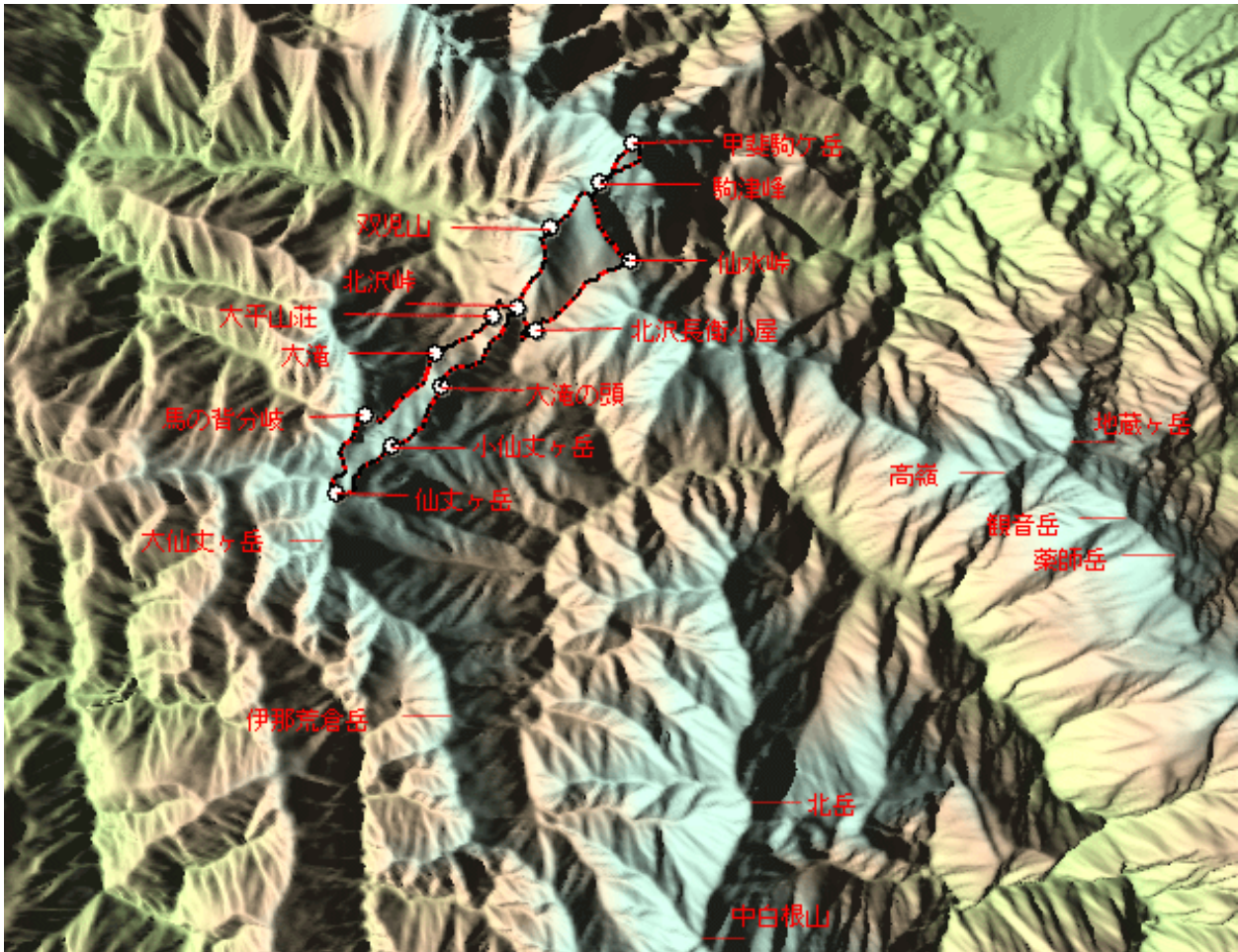
日時 1999/10/08

山行形態 単独幕営山行(北沢峠定着)

コース

10/08	15:30 大阪 - (阪急バス) - 20:35 伊那バスターミナル
10/09	05:25 伊那北 - (JRバス) - 06:11 戸台口 06:25 - (長谷村営バス) - 07:25 北沢峠 - 北沢長衛キャンプサイト - 仙水峠 - 駒津峰 - 六方石 - (直 登ルート) - 甲斐駒ヶ岳 - (迂回ルート) - 六方石 - 駒津峰 - 双児山 - 北沢峠 - 北沢長衛キャンプサイト
10/10	北沢長衛キャンプサイト - (小仙丈尾根) - 大滝の頭 - 小仙丈岳 - 仙丈 避難小屋分岐 - 仙丈ヶ岳 - 仙丈避難小屋 - 馬の背分岐 - 馬の背ヒュッテ - (藪沢ルート) - 大平山荘 - 北沢峠 - 北沢長衛キャンプサイト
10/11	06:35 北沢峠 06:50 - (長谷村営バス) - 07:55 仙流荘 - (親切な方の車 に同乗させてもらう) - 08:30 JR 伊那北 08:49 - 18:48 大阪

ルートマップ



この地図の作成にあたっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図および数値地図50mメッシュ（標高）を使用したものである。（承認番号 平14総使、第28号）

行程詳細

- 10/08 14:30 <保険> 東京海上火災にて国内旅行傷害保険に加入。お守り替わり。すぐに加入できるが印鑑が必要。保険料1000円。
- 15:30 <アクセス> 阪急バス(紀伊国屋書店北側) 伊那・箕輪行き乗車。
- 20:35 伊那バスターミナル下車。
- <アクセス>
伊那駅前の伊那ステーションホテル(安宿)に宿泊しても、他の交通機関を使用した場合と費用は大差ない。睡眠が十分取れる利点がある。
- | | | |
|----------------|------|---------|
| バス代 | 5100 | |
| ホテル代 | 4400 | 合計 9500 |
| (比較) | | |
| JR 塩尻・岡谷乗換え伊那北 | | 9650 |
| (大阪・塩尻間 特急利用) | | |
- <ホテル>
このホテル、チェックイン22:00まで。シャワー等22:00以降使用不能。
- 10/09 04:30 起床
- 05:00 JR 伊那北(ホテルから約10分)
- <アクセス>
岡谷・辰野方面からの一番列車の到着は05:19なので、バスは先頭に並ぶことができる。
- <その他>
早朝から地元の人たちが駅前の清掃をしている。気軽に声を掛けてくれる。
- 05:25 JRバス戸台口行き乗車。
- 06:11 戸台口着
- 06:25 戸台口発
- <アクセス>
長谷村営バス北沢峠行きは、混雑時ピストン輸送で対応してくれる。バスはマイクロバス。運転手から概略の登山情報がある。戸台口のバス停は、長谷村、JR 共通。
- 07:25 北沢峠着
- 07:35 北沢長衛キャンプサイト着
- <キャンプサイト>
上下2段の広大なキャンプサイト。公称80張。すでに倍は有りそう。テント場届は長衛小屋。中高年の登山ブームと言うが、キャンプサイトは若い人が多い。
- <山小屋>
北沢峠周辺の小屋は全て(仙水小屋を含め)混雑時は予約制。予約客以外は宿泊不能。情報によると、それでも縦枕で寝かされたらしい。
- 08:00 北沢長衛キャンプサイト発、仙水峠に向かう。
- <ルート・展望>
背後に小仙丈ヶ岳手前の緑に覆われた大滝の頭・小仙丈ヶ岳間の稜線が朝日に映えて美しい。北沢長衛キャンプサイトを出た直ぐは北沢左岸を歩く。丸木橋で右岸に渡りロープを張ってあるちょっとした岩場を登る。丸木橋に出て左岸に渡り返しシラビソ林の中の階段状の道を登りきると仙水小屋である。
- 08:25 仙水小屋。朝食をとる。
- <山小屋>
小屋の経営が替わって以来、料理のおいしいことで名を馳せてきた。宿泊

者の話では、夕食に刺身が出たとか。個人的には山小屋での刺身は好まない。

朝食 04:00、夕食 16:00、消灯 19:00。

<ルート・展望>

樹林の道を歩いていくと、突き当りがゴース。右に折れ少し行った所で振り返って欲しい、仙丈ヶ岳が小仙丈越しに見える。ゴースの道が仙水峠まで続く。

09:05

仙水峠。

<ルート・展望>

標高2264m、変成岩の堆積土壌。ここ仙水峠は甲斐駒ヶ岳、摩利支天の絶好のビューポイントである。摩利支天の威容が辺りを払う。駒津峰への道は、ここまでの緩斜面とは打って変わり樹林の急登となる。樹林が疎らになると仙丈や北岳、鳳凰三山、富士が見渡せる。やがて小さな広場に出る。多くの人が休んで眺望を楽しんでいる。一瞬の晴れ間、あるいは雲の姿が特に良いというような特異な条件を除けば混雑の中、慌てて写真を撮ることもない。後一息で樹林帯を抜ける。そうすると駒津峰までの全ての地点がビューポイントである。山の姿に大きな変化はないだけに、あせることもない。

10:25

駒津峰。

<ルート・展望>

2750mの頂きは展望に優れている。槍・穂高、乗鞍、御岳、中央アルプス、塩見、間の岳、北岳、富士、高嶺、観音、地藏、そして間近に仙丈ヶ岳、甲斐駒ヶ岳である。駒津峰で甲斐駒ヶ岳へのルートを観察しておこう。駒津峰の下りは直ぐに岩場。岩場のアップダウンを繰り返し六方石に至る。六方石までの鞍部で甲斐駒ヶ岳特有の風化した花崗岩が明瞭に現れる。六方石でルートは二つに分かれる。左は直登ルート。右は迂回路で風化花崗岩のザラついた道である。時間的には直登ルートのほうが早い。直登ルートを詰め、風化花崗岩の道に出ると一登りで甲斐駒ヶ岳山頂となる。

<エピソード>

直登ルートを10名ほどのオバサンの一団が糞詰めている。ぺちゃくちゃと声高に喧しい。口のほうは極めて軽快なのだが、足のほうは殆ど止まったままである。

11:44

甲斐駒ヶ岳山頂。

<ルート・展望>

標高2967m。花崗岩の山、真っ白な山である。緻密な花崗岩の地層は高木の進出を阻み森林限界が存在しない。神々しくもあり、一種異様でもある。鳳凰山系の後ろに富士がある。雲の演出も風情がある。四囲の展望を満喫する。駒津峰では得られなかった八ヶ岳方向の展望が開けている。

12:20

甲斐駒ヶ岳発

<ルート・展望>

下りは迂回路を使うことにした。山頂より指導標の林立する黒戸尾根の突き上げの祠(2965.6m)を目指す。祠の手前で右にルートを探る。風化した花崗岩の道に多くのトレールが刻まれている。六方石と摩利支天は常に見える。道を失うことはないがガスった日は注意が必要かもしれない。

<気象>

12:40 甲斐駒ヶ岳はガスに隠れる。

13:10

駒津峰。

<ルート・展望>

双児山にルートを探るのだが、目の前に見えるピークらしきものは尾根の

出っ張り。この出っ張りの手前で左に双子山へのルートに分ける。出っ張りへもトレールがついているし、分岐には赤いペンキの矢印があるので、分岐を見落とさないこと。双子山へのルートに入ると直ぐに岩屑のジグザグ道となる。やがて樹林のジグザグ道となり、登りが現れたら双子山。この間テープが巻いてある。

13:50

双児山。

<ルート・展望>

標高2649m。今回ガスが懸かって展望不良。晴れていれば伊那谷とアルプス北部が一望できる場所。樹間の道をジグザグに下っていく。やがて、道路が見えたら北沢峠まであと30分。

<気象>

今年は9月が暖かった。その影響で紅葉は10日遅れ。こういう年は紅葉の季節が短くなる。

14:55

北沢峠。

15:00

北沢長衛キャンプサイト。

不明

<気象>

多分21時頃と思う。「今日は流れ星が多いね」の声に目覚めた。

1999年10月09日 午前10時がジャコビニ・チンナー流星群の極大である。

暫く空を見上げる。一分間に3個程度流星が出現している。

10/10

04:30

起床。

<気象>

隣の夫婦が騒いでいる。「コッヘルに氷が張ってるよ」 明け方寒かった。

05:00

北沢長衛キャンプサイト発。

<ルート・展望>

キャンプサイトと北沢峠の間に小仙丈尾根二合目に至ルートがある。今回は北沢峠からのルートを採用。一～四合目までは長谷村がプラスチックボードをぶら下げている。二合目手前で遥か行く手の斜面が朝焼けに美しい。二合目よりルートは急峻になる。

05:50

小仙丈尾根三合目。

<ルート・展望>

二合目より急峻な登りが小仙丈岳まで続くことになる。三合目からの急斜面が一旦平坦になると大滝の頭である。

06:50

大滝の頭。

<ルート・展望>

ここで藪沢小屋へのルートに分ける。展望はない。

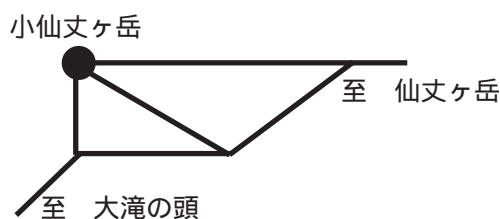
<山小屋>

藪沢小屋は休業中。ただし、緊急避難用に扉は開けてあるという情報あり。

07:10

標高2560m付近の平坦地。

<ルート・展望>



この平坦地から槍・穂高が遠望できる。紅葉はいまひとつ。色がさえない。小仙丈ヶ岳への道は樹林のない草原ふうの道。小仙丈ヶ岳手前、高差5mほどのところで道が分岐する。小仙丈ヶ岳へは直登する。他のルートを探った場合は略図を参照されたい。

07 : 45

小仙丈ヶ岳

<ルート・展望>

展望絶佳。左に富士を従える北岳が目飛び込んでくる。山の姿としては甲斐駒からの北岳のほうが魅力的である。日本第四位の高峰、間の岳がどっしりと佇んでいる。仙丈ヶ岳は「南アルプスの女王」と謳われる。名に相応しく優美である。仙丈避難小屋の分岐まではほぼ平坦。分岐から一気に登る。登りきった所が大仙丈方面への分岐点。右手5mに仙丈ヶ岳三角点がある。

08 : 55

仙丈ヶ岳。

<展望>

昨日にまして眺望は良い。まさに360°の大展望。遙か後立山、剣岳まで見える。下りは藪沢ルートである。

<エピソード>

一筋の飛行機雲が太陽の光に七色に輝いている。

10 : 00

仙丈ヶ岳発。

<ルート>

藪沢カール末端の仙丈避難小屋を目指して下る。下りもかなり急である。仙丈避難小屋で小仙丈への道を分けさらに下る。甲斐駒の雄姿を愛でながら下り、ルートが平らになったら馬の背の分岐。左すれば丹溪新道、右すれば藪沢ルートとなる。背後の逆光の仙丈ヶ岳を仰ぎつつ藪沢ルートに入る。5分ほどで馬の背ヒュッテにつく。

<山小屋>

仙丈避難小屋は現在長谷村の手によって再建中である。1999/11完成。2000/06より営業開始という。3階建て、水洗トイレ。事業主体は長谷村。工事のため小屋周辺でのキャンプは現在禁止されている。

11 : 00

馬の背ヒュッテ。

<山小屋>

ジュース一本、バグジー一つ売っていない。

<気象>

馬の背ヒュッテ周辺のダケカンバの紅葉はまだ。今年の紅葉は、黄色になると直ぐに黒ずんで落葉する、美しい紅葉の見られない秋。

<ルート・展望>

ヒュッテより数分の下りで水流に突き当たる。ここが大滝の頭との分岐。藪沢ルートは沢筋特有の岩角の道。ルートは左岸についている。左岸沿いに大滝を眺め大滝の少し下で丸木橋を右岸に渡る。ルートは水流から離れ、数本の枝沢を横切ると大平山荘となる。このルート、水には不自由しないが、展望はまるでできない。登りに使った登山者には悪評さくさくであった。

12 : 10

大平山荘。

<山小屋>

ジュースもあれば電話もある。気の良いお兄ちゃんが出てきた。山の話が弾む。仙丈のバグジーを購入。

<ルート>

北沢峠に向かうルートは大平山荘の横を南アルプス林道に突き当たって右である。道標も立っているので間違えることはない。ところがこの道、仙

		丈に上り返しているのかと思うほど急である。一本道。車道に飛び出すと北沢峠まで100m。
	12:30	北沢峠。
	12:40	北沢長衛キャンプサイト。
10/11	04:30	起床 <北沢長衛キャンプサイト・ゴミ> 幕営山行者用に水は引き水してある。 キャンプサイトのゴミは分別廃棄。生ゴミは穴の中に捨てることになる。 戸台口手前の仙流荘バス停でもゴミは捨てることできる。長谷村がゴミ捨て場を設置してある。
	05:30	北沢峠長谷村営バス停。
	06:50	長谷村営バス始発乗車。 <アクセス> 定時は07:30であるが、混雑に応じて臨時便で対応してくれる。因みに昨日の始発は05:30だったと言う。ここまで早くバスが出る場合は北沢峠にバスが数台待機するので直ぐにわかる。JRバス戸台口との連絡は運転手が伊那行きの乗客の有無を確認し、長谷村がJRバスと交渉はしてくれるが対応してくれるか否かは時の運。今回はバス停で知り合った福井の方が仙流荘から送ってくれた。高遠を過ぎた辺りでJRバス3台とすれ違う。増発したようである。
	08:30	JR伊那北。 <アクセス> JR伊那駅南50mのバスターミナルから大阪行きバスもある。伊那発16:00。梅田の紀伊国屋書店北側バスターミナルに着く。
	08:49	岡谷行き乗車。
	09:34	岡谷発。 <アクセス> 松本まで出て、特急しなの乗車。塩尻は何にもない田舎の町。時間をつぶすのも大変。 大阪行きの特急しなの、連休ということで大変な混雑だった。
	18:48	大阪着。

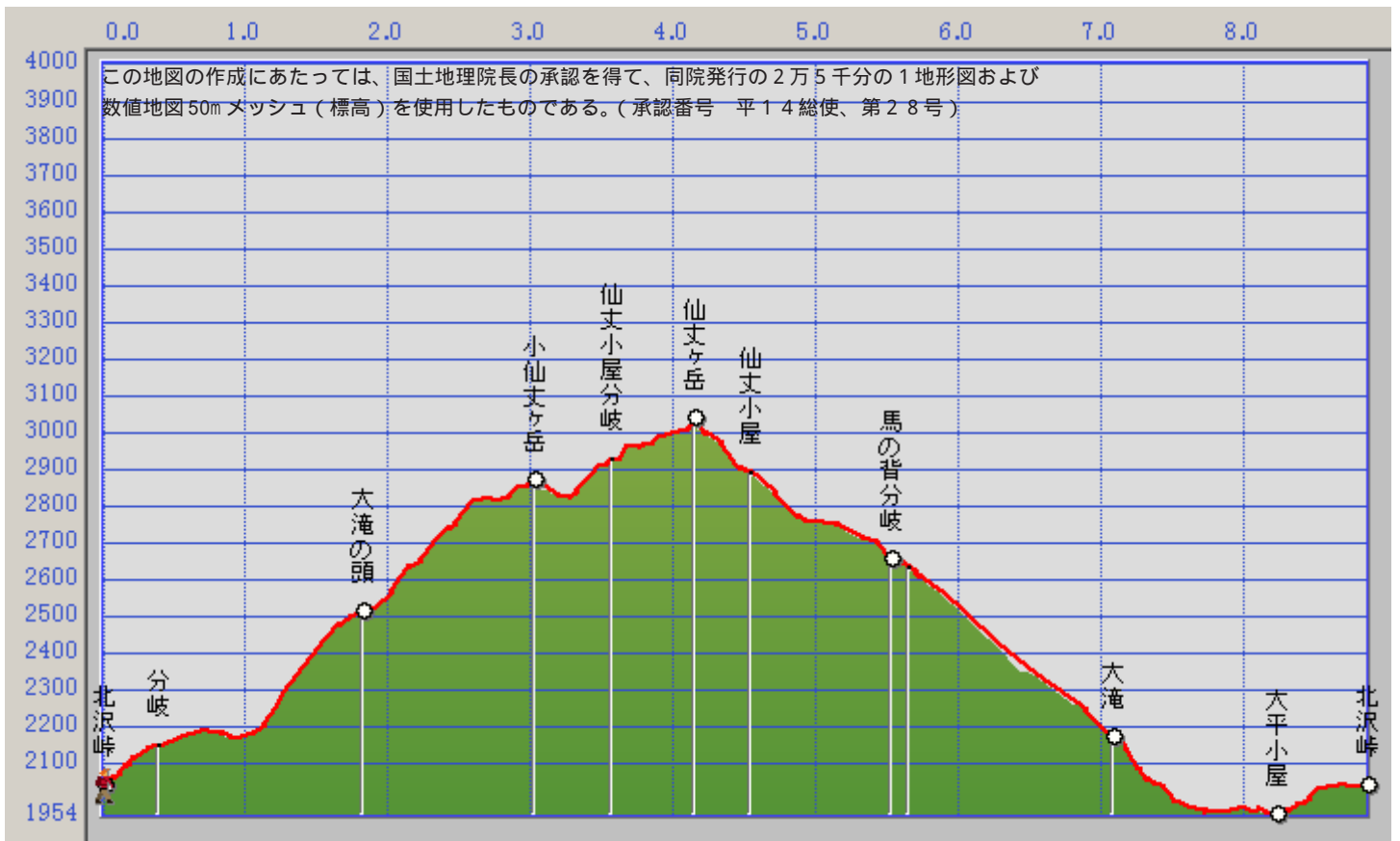
ルート断面図

北沢峠 - 仙水峠 - 甲斐駒ヶ岳 - 駒津峰 - 双児山 - 北沢峠



この地図の作成にあたっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図および数値地図50mメッシュ（標高）を使用したものである。（承認番号 平14総使、第28号）

北沢峠 - 小仙丈ヶ岳 - 仙丈ヶ岳 - 大滝 - 大平山荘 - 北沢峠



この地図の作成にあたっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図および数値地図50mメッシュ（標高）を使用したものである。（承認番号 平14総使、第28号）

